

平成18年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成18年5月9日

発表：福島県病害虫防除所

害虫名 タバココナジラミ バイオタイプQ
(*Bemisia tabaci* Q-baiotype)

1 発生の経緯および状況

- (1) 平成17年12月に県内いわき地方の施設トマトでタバココナジラミの発生が確認された。その後、本年3月に各農林事務所の情報を基に病害虫防除所と農業試験場とで、発生状況を調査したところ、浜通り地方の南部の数ほ場で発生が確認された。本種成虫及び蛹を採取し、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所本多健一郎氏にバイオタイプの識別を依頼した結果、本県未発生のタバココナジラミバイオタイプQであることが判明した。
- (2) 本種の発生ほ場では排泄物によるすす病および着色異常果の発生が見られたが、トマト黄化葉巻病の症状は確認されなかった。

2 形態、生態

- (1) 国内で確認されているタバココナジラミのバイオタイプは在来2系統（バイオタイプ不明）、シルバーリーフコナジラミ（バイオタイプB）および、バイオタイプQが確認されている。バイオタイプとは寄主選好性や交雑の可否、遺伝子型の相違などの形態以外の生物学的な性質が異なる系統を指し、PCR等を利用したタイプ識別以外で同定できない。
- (2) 成虫の体長は0.8mm程度、体色は淡黄色で白色の羽をもつ。オンシツコナジラミ成虫と比較するとやや小型で、体色がやや濃い。蛹は長さ0.8~1.0mm、全体が淡黄色で、楕円形、背面がやや隆起する。オンシツコナジラミは体色が乳白色で蛹全体に厚みがあるコロッケ状をし、刺毛が目立つ。
- (3) 寄主植物の範囲は広く、ナス科、ウリ科をはじめ多くの野菜や花き類、雑草などでも確認されている。
- (4) 農作物への被害は排泄物に発生するすす病による葉や果実の汚れ、吸汁による生育の遅れなどがある。また、トマトなどで着色異常果が発生するが、シルバーリーフコナジラミ（バイオタイプB）よりも着色異常果の発生率は低いと言われている。TYLCV（トマト葉巻病ウイルス）を媒介することが知られているが、本県ではまだトマト黄化葉巻病の症状は確認されていない。

3 当面の対策

- (1) 購入苗を使用する場合には、寄生が認められる苗、及びウイルス病が疑われる苗は適切に処理する。
- (2) 施設栽培では0.4mm目合い以下の防虫ネットで開口部を覆い、成虫の侵入を防ぐ。

- (3) ほ場および周辺の除草を行い、ほ場衛生管理を徹底する。特に施設栽培では施設内に作物以外の植物を持ち込まない。
- (4) 発生ほ場においては周囲への分散を防止するため、栽培終了後にはハウスを密閉して蒸し込みを行い死滅を図る。
- (5) 既発生地との報告によると、バイオタイプBと比較してネオニコチノイド系の薬剤の一部や合成ピレスロイド系剤、ピリプロキシフェン（ラノーテープ）剤に対する感受性の低い系統が確認されていることから、薬剤の効果に注意して使用する。
- (6) 本種に対して使用できるトマトの登録農薬を表1に示す。

表1 トマトのコナジラミ類の主な防除薬剤

薬剤名	薬剤系統（有効成分）	使用時期	使用回数	使用濃度
（定植時の粒剤）				
アドマイヤー 1粒剤	ネオニコチノイド（イタクトロプリド）	定植時	1回	1～2g/株
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド（イメダクトロプリド）	定植時	1回	1g/株
スタークル粒剤	ネオニコチノイド（イメダクトロプリド）	定植時	1回	1g/株
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド（イメダクトロプリド）	定植時	1回	1～2g/株
（生育期間の散布剤）				
アルバリン顆粒水溶性※	ネオニコチノイド（イメダクトロプリド）	前日	2回	3000倍
スタークル顆粒水溶性※	ネオニコチノイド（イメダクトロプリド）	前日	2回	3000倍
ダントツ水溶性※	ネオニコチノイド（イメダクトロプリド）	前日	3回	2000～4000倍
ベストガード水溶性	ネオニコチノイド（イメダクトロプリド）	前日	3回	1000～2000倍
モスピラン水溶性※	ネオニコチノイド（イメダクトロプリド）	前日	2回	2000倍
ハチハチ乳剤※	フェンピロキシメート化合物（トルフェンメト）	前日	2回	1000～2000倍
チェス水和剤	ピリプロキシフェン（ピリプロキシフェン）	前日	3回	3000倍
サンマイトフロアブル	（ピリプロキシフェン）	前日	2回	1000～1500倍
コロマイト乳剤	（ピリプロキシフェン）	前日	2回	1500倍
サンヨール	有機銅（DBEDC）	前日	4回	500倍
ノーモルト乳剤※	I GR（イメダクトロプリド）	前日	2回	2000倍
プリファード水和剤 ^{△1}	天敵微生物（ハチマキアザトバクテリア）	発生初期	-	1000倍
ボタニガードES ^{△1}	天敵微生物（ハチマキアザトバクテリア）	発生初期	-	500倍
マイコタール ^{△1}	天敵微生物（ハチマキアザトバクテリア）	発生初期	-	1000倍
（くん煙剤）				
モスピランジェット※	ネオニコチノイド（イメダクトロプリド）	前日	2回	50g/400m ³
（特殊な防除剤）				
ラノーテープ ^{△1} ※	I GR（ピリプロキシフェン）	発生期間中	1回	10～50m ² /10a

注1) ボタニガードESは野菜類、プリファード水和剤、ラノーテープは野菜類（施設栽培）、マイコタールは野菜類（施設栽培）での登録。

注2) ※は蚕に対する影響が強いことを示す。△は野菜類の登録であることを示す。

薬剤防除の効果が見られないなど、本種の発生の疑いがある場合は、福島県農業総合センター安全農業推進部（病虫害防除所）までお問い合わせ下さい。

TEL 024-958-1709、FAX 024-958-1727

e-mail : yosatsu@pref.fukushima.jp



タバココナジラミ バイオタイプQ成虫



タバココナジラミ バイオタイプQ蛹



タバココナジラミによる着色異常果



オンシツコナジラミ成虫



オンシツコナジラミ蛹